

北広島市長期総合計画審議会 第4回 教育・地域専門部会 議事録

■日 時 平成 21 年 9 月 24 日(金) 18:00~20:00

■会 場 北広島市芸術文化ホール 活動室 1

■出席委員

杉本修部会長、吉田正男職務代理、宇田川留美子委員、鶴木一任委員、
岡喜美枝委員、岡本若子委員、桂裕章委員、菊池重敏委員、
富田忠行委員

■欠席委員

村山紀昭委員

■事務局

高橋通夫企画財政部長、川村裕樹総合計画課主任

1. 開 会

2. 部会長挨拶

【部会長】7月に始めた審議会だが、前回と今回で割り当てられている第2章と6章のところについて検討し、一定の意見を10月6日の全体会議で報告しなければならない。資料は教育・地域部会からの報告(案)ということになっているが、空白の部分が圧倒的に多いため、出来る限り今日、残った部分を逐条的に、節ごとに検討し、10月6日に向けての準備を進めたい。

【事務局】資料の確認だが、まず、第2回の審議会全体会議の議事録がある。次に、第3回教育・地域部会の議事録、前回の議事録。これについては、後ほど部会長確認の上公表していく。

次に、教育・地域部会からの報告(案)で、前回の会議の結果を各節ごとに事務局で振り分けして作成した。

この報告(案)については、当部会が担当する部分については記載しているが、他の分野がかかわる部分についてはその旨記載している。他の部会についても、同じ方式で進めている。

それから、遺産マップだが、今回、エコミュージアムに関して、当市で作成している資料の一つということで、審議の参考になればと思い用意した。

それでは、分野別の政策と施策について審議願いたい。

3. 議 事

【部会長】それでは、第2章のところから議論したいが、2章全体についていうと、

1 節と 2 節が基本になっていて、3 節以降については個別系問題なので割と簡単に進むだろう。第 2 章の 1 節、2 節について議論していただきたい。

部会からの報告（案）というところに、前回であった議論については、今までの分がまとめられているが、とりあえず 2 章の残っているところについて、それぞれ順番に議論していきたい。それから、6 章の後半については、ほとんど議論していないところを行っていききたいが、全部をこの部会で議論する必要はないと考えている。例えば 6 章の情報公開という問題は、我々だけの問題でなく、全体会議の中で、三つの部会それぞれ意見を出して、次の段階でまとめればいいと思われるので、6 章については、ほとんど三つの部会の連帯責任ではないかと考えられる。6 章については、最後のほうで確認していきたい。そうすると、第 2 章の 1 節、2 節は、前回一応議論したということで、3 節のところから順番に御意見をいただきたい。3 節は手元にあるが、家庭・青少年健全育成の推進ということで、現状と課題、それから、基本的な方向が書いてあり、裏側に図示もされていて、計画の体系で三つのこと、家庭の教育力向上へ支援をするということと、相談体制の充実、それから、地域の健全育成という形で出ている。この部分について意見があれば出して欲しい。私のほうから先に発言するが、前回、幾つか児童会館と児童センターという施設の話があったが、これについても、そのことが 1 節に入れられており、当然のことながら「地域」が消されるとか、相談とかという問題についていえば、これも 1 節で前回話したことも、一つの施策の柱にはなり得るとソフトの部分も書いてあるが、裏側で支えるハードの部分もあるというのは、1 節と共通するようなものであると捉えている。もちろんこれ自体は一つの課題として節に挙げておくことも異存はない。もし意見がなければ、この 3 本の施策を体系にすることと、部会としては、1 節で話したことを少し考えて、1 節、3 節を連動させる形でこれを実現させて欲しいとまとめておきたい。4 節、社会教育の充実だが、報告（案）では、既に前回話した中で出た意見が二つ出ている。ここも 1 節とまた関わるが、自主的な活動を守り育て、応援していくことが必要である。4 節を読んだ限りでは、社会教育は、要するに、今、公的な学校にいない人をすべてを対象にしろと言われても、0 歳から 6 歳までというか、学校に行っていない人すべてが対象であるし、ある部分においては、学校に行っている人も学校を出たところで地域が育てるといふ、そういう意味だろうと考えている。資料にあるような施策の体系としては、三つに示されているので、学習活動の支援員と学習機会の充実と施設の充実、これも前回出たことと連動するが、情報、つまり市の公的な情報発信。例えば一月に 1 回発行されるのは何というのですか、新聞に入れて配られているものは。

【事務局】 広報です。

【部会長】 広報にもいろいろな講演会や講習会がありますとか、研修がありますという情報は載せているが、この広報だけですか。

【事務局】あとは新聞やホームページにも掲載している。この検討結果もホームページには載せてある。

【委員】地区内の回覧板にも入ってくる。

【部会長】参加出来るものについての情報というのは、全部にかかわるが、もっと一月に1回の広報とか、ホームページを勝手に見てくださいということではなくて、何かないかなという気がする。全体にかかわって、いろいろなことを市が中心にして提案しようとして、それが5万か6万の市民に適切に伝わる環境整備というのは非常に重要だ。駅の掲示板は情報としてはおもしろい。市の広報より、駅にいろいろな紙が、ほとんど無制限に張ってある。アルバイト募集から、いろいろな小さな集まりの案内、大きな講演会があるとか、あれははるかに市の広報より小さい字で出ているが、アピール力というか、それは絶対ある。ああいうのをもっと、東急や生協の玄関などで出来ないか。

【委員】張らせてくれない。

【部会長】市でお金を払えばいい。法律で定められた、だれも見ない文章がガラスの箱に入って掲示されているが、ほとんどの市民にとって、あの掲示板は意味がない。見ても見なくてもいい、ただ法律的に定まっているから公示しているのは意味がないし、みんなが見てくれて楽しいものが、ここだけではないけれども、やっていることを伝える方法は、非常に重要である。駅の掲示板は市が管理しているのか。

【事務局】そうです。

【部会長】あれは画期的だと思う。

【委員】広報も、本当に何かをやろうと求める人間は、本当に来るのが楽しみで、何か参加出来るのがないかと、ネットワークをしっかりと張っている。うちの夫はまさしく「団塊」で、退職して、この広報や掲示板が頼りになっている。落語講座やアーチェリー教室など、行けるところ全部に行っている。社会教育は、素案の後ろの芸術やスポーツなどで、内容が重複している。社会教育については、市としていろいろやるなら任せても良いと考えているので、私は、美術協会の立場から、芸術・文化をよく読んできたのだが、文句がある。市としては、ホールで行われる演奏会や演劇などはバックアップしているし、市職員もよく見に来ているなどと思うが、なぜかギャラリーの展示物、美術協会などいろいろやっているが、残念なのが生涯教育の関係者がほとんど見に来ない。市民をバックアップするのであれば、市職員も見に来て欲しい、知って欲しい。そして、声をかけて励まして欲しい。

【部会長】これは報告（案）の社会教育のところにも出ている。応援するというシステム、それはもちろん応援もあるし、その前段で広報を手伝うこともあるし、いろいろなことが含まれているが、ほかの分野にもかかわる問題だ。

【委員】活動に関しては、演奏会などを行うときも、援助をいろいろな方法で受けられる。一番欲しい援助としては、今回、美術協会では記念誌を作るのだが、各サークルも記念誌などいろいろと作成しているものの、それに対しての援助はない。市は歴史をしっかりと大切にしておきたいと謳っているが、記念誌を作る援助もして欲しい。

【部会長】ほかに、4節にかかわる意見のある方はどうぞ。

【委員】スポーツや芸術・文化に関する発言があったが、部会長のいうとおり、駅の掲示板に身近な情報が書かれているのはいいと思う。特に、芸術・文化のスポーツ関係は専門性が高く、文化といっても広いものがあるので、特に、市民生活に関連する生活文化の観点が社会教育に欲しい。要するに、市民の生活に密着した生活文化といった言葉もあるので、このような情報も欲しい。

【部会長】ほかに意見はないか。5番目は、ちょっと異質だが、歴史の継承と創造、大きな話として、エコミュージアム構想の推進について別添の資料が配られている。この構想自体は進んでいるのか。

【事務局】エコミュージアム構想そのものを整理するため、市民委員会を中心に検討を進めている。エコミュージアム構想（案）があるが、後ほど配布する。

【委員】一つ提案があるが、歴史であれば、北広島で「バイソン」が発掘された。今、ゴルフ場があるところに、バイソンがそのままの形で見つかった。でも工事がストップしてしまうので壊してしまったと聞いている。その壊してしまったものが開拓記念館にあるが、北広島の財産があそこにあるのはとても残念なので、返してもらうことは出来ないか。穂別町や三笠市のように博物館があると、子どもたちにとっても良いのではないか。

【部会長】新たな建物を作るということも含んでいるのか。

【事務局】構想にはない。コア施設を作るということは構想にはあるが、実現は難しいと考える。

【部会長】比較的新しいものは対象にならないのか。今、産業遺産などで炭坑を残そ

うといった動きが活発化している。この北広島は林業のまちであったときもある。稲作中心といつつも、森があって、そこから木をとってきて、今のまちの真ん中だって、昔は製材所だったし、私が引っ越してきたときにはまだ裏に木が積んであった。本体は残っていないけれども、材木工場があったことを、写真でもジオラマでも、モデルでもいいから残すべきだと思う。もっと言えば、「広葉ストア」というのは、住区という形で、団地は第1、第2、第3、第4とあって、それぞれに商業施設を作ったわけだが、第1住区は「広葉ストア」の建物がまだ辛うじて残っている。あれこそ産業遺産ではないか。

【委員】 南町の「ショッパーズひろ」など、どんどんつぶれている。

【部会長】 「広葉ストア」だけ残っている。そうすると、ここの内容そのものについては、この部会では議論は余りしない。よそから見ると、「北広島市」というのはでっち上げたまち、要するに道営団地ができて、突然でっち上げられたまちというイメージがすごく札幌市民には強いと思うが、そうではないという、きっちりした歴史のある由緒正しいまちだと宣伝するのは、全体を通していいことだと思う。前の構想の中に歴史はあったか。

【事務局】 少しあった。

【部会長】 歴史以前のところまでさかのぼって、継承して、さらに新たな市を作っていくのはどうか。それから、6番目はもっと具体的だが、第6節で、読書活動の充実として図書館サービスについてと、子どもの読書活動推進という二つの施策を載せている。今の大学図書館は、1年間何冊貸したかを学生数で割って、競い合っている。毎年何冊新しい本を買ったなど、それらを学生数当たりで割って全国の大学のランクが出ている。貸し出し冊数もそのように競っており、今の大学図書館は非常に数字を気にしている。ここの図書館は、そういう方法でいいのかなという気もするが、図書館の施設というのは、駅前に大きいのがある。あとはどこにあるのか。

【事務局】 規模は別にして、西の里と大曲の夢プラザ、西部とそれぞれある。

【部会長】 市が持っている本の、ランチのあるところは1割もないはずだ。規模から言えば、ここに500万冊も貸したなど記載されているが、蔵書総数は。

【事務局】 40万冊です。

【部会長】 図書館は市の施設か。専任職員がいるのか。

【事務局】 図書司書がいて、図書館長も市の職員である。その下に臨時職員の司書がいて、あとは委託で運営している。

【部会長】 日々の運営について、例えばどんな本を買うとか、休みはどうするとか、企画展は何やるとか、そういうことは全部図書館長と専任の司書の中で考えているのか。

【事務局】 そうだと思う。

【委員】 市民から要望があれば購入しているはず。

【部会長】 それはどこの図書館の場合も行っているのではないか。次に、前段の市民参加。次の第6章のところに、トップに「市民参加」と出ている。読書活動の充実であれば、現実には館長と司書と何人かで頑張ってくれというのは酷で、市としては、書籍購入の予算を確保するとか、遠い地区にもう少し多くの本を置くなどは出来るけれども、もっと特徴のあるものにするためには、バックアップする市民活動が必要だ。以前「図書館づくりの会」というのがあったと思うが、純粋ボランティアで、いろいろな提案をしていたはずである。図書館ができた後は、「図書館づくりの会」は解散したのか。

【委員】 今は「図書館フィールドネット」がある。主に子どもたちの読書活動をしているが、絵本の選定も行っている。学校に呼びかけたり、地域で様々なイベントを行っている。

【委員】 フィールドネットは、視覚障害のための朗読サービスや点字なども行っている。また、市民サービス、図書館サービスの充実とあるが、「あおぞら号」のことがどこにも記載されていない。高齢者は、出かけることが難しい方は、「あおぞら号」をすごく頼りにしている。もっと「あおぞら号」の回数をふやすなり、あちこちにとまるなりのサービスができれば、近所の高齢者も喜ぶ。

【部会長】 もう終わったが「本のばくりっこ」があった。

【委員】 お手伝いで行ったが、やはりボランティアなので、何回もあると大変。世代によっては専業主婦がほとんどいないが、仕事を休んだり、都合をつけてボランティアといった厳しい状況もある。子どもも3年生までは学童保育があるが、4年生からはない。ただ、フィールドネットですごくありがたいのは、図書館の倉庫を借りられるため、そこで打ち合わせしたり、活動して、会議が出来ること。こういう場所がなくなると、みんな働いているので、集まる場所がなくなる。

【委員】 市民企画室というのがあるのが、無料で借りられる。利用出来る団体が限られているため、もっとオープンにしたほうがよい。

【部会長】 ここに関しては、書いてあることについては異存はない。ただ、市民参加は、市民によってつくられている組織、ボランティア組織をもっと援助することが望ましいし、本の選定にしても、予算が決まる時期に、市の広報に希望用紙を入れて意向を聞くようにした方がよい。図書館での本の選書は、ものすごく時間かかる仕事ではないか。1年間に1,000万円とか2,000万円とかお金ある場合、どういう本を選ぶかという、それは3人で選ぶよりも30人で選んだほうが、いい本を選べる確率は高くなるし、市職員が時間を割いて考えるよりは、もっといろいろな分野の仕事を人がまちにいるのだったら、その分野で推薦出来るものがあるといいと思う。市民がこういう運動に積極的に参加出来るようになる道を少し考えて欲しいということをつけ加えておくこととする。

【委員】 今の読書の件、10年間で500万冊はものすごい実績だと思うが、小学校で朝早くに読書時間、10分か15分、このようなパターンは子どもたちの読書力を高める意味でも非常に望ましい。また、読書感想文コンクールなどを定期的に行って、例えば小学生の部、中学生の部、大人の部など、月例などで行っていけば、非常に子どもたちが本を読んでもくれる中において、意欲を増していくのではないかなと思う。

【部会長】 子どもの読書活動推進計画策定などの事業としては十分可能性があるのではないか。他に、小学生が参加して、このまちの独自性を打ち出せるものはないか。

【委員】 石狩管内では、絵画コンクールを行っている。

【部会長】 松山市だと、小学生の俳句。あそこは子規の出身地だから、小学生の俳句コンクールがあるが、いわゆる小学生レベルでなくて、非常に素晴らしい。

【委員】 文芸北広島協会に入っているが、そこでも小中学生から短歌、俳句、川柳を募集して、選んでいる。

【部会長】 発表の場としてあるのですね。例えば読書感想文ではなくて、大きな活字にして、今、ワープロで書いたものは、大きな活字で打ち出すことが簡単だし、2センチ四方の字にして、原稿3枚ぐらいのものを載せたりしてはどうか。一応具体的な話としては、感想文コンクール。それから、学校始業の10分前に本を読むというのは、様々な地域で行われている。先生が読み聞かせたり、持ってきた本を自由に読んだり、10分とか15分。

【委員】資料の学校紹介の中にも、何校かある。西部小学校など。

【部会長】その資料には、市全体の小学校は全部出ているのか。よそのまちにアピール出来る。6節についてはこんな感じでどうか。7節、芸術文化だが、あれこれ提案というのは余りない。ホールができて、一定の段階まで来た。あとは、充実させることしかないのではないか。

【委員】ホールがとても利用しやすくなった。わかりやすくなった。

【部会長】ホールそのものについて、どういう組織があるのか。ボランティアを含め。

【委員】案内やコーヒー販売などはボランティア。

【部会長】そのほか、運営に関するボランティア組織はないのか。

【委員】ホール運営のボランティアがあつて、照明など裏方は男性も混じって行っているが、ひどく減っている。団塊の世代をそこに送り込んでどうか。

【部会長】市民が主体的にと記載されている。現在、美術協会のほか、音楽協会も文芸協会もある。

【委員】文芸協会もある。

【部会長】音楽協会は、その下に合唱団や吹奏楽まではないはず。合唱団はあるのか。

【委員】合唱、演奏など全て入っている。

【部会長】美術は。

【委員】美術は、美術団体を発足したときに、美術団体が集まって設立された。

【部会長】絵画サークルなどか。では文芸協会は。

【委員】文芸は、組織ではない。

【部会長】北広文芸は活動しているはず。

【委員】1年に一度だが、書籍販売があるので、励みになっている。

【部会長】俳句の会や川柳の会などは。

【委員】北広島は盛んだ。道新の俳句や短歌の発表欄があるが、北広島の名前がよく出ている。文化的なまちだと思う。

【部会長】もう少し市民が主体的になると、何があるか、洗いざらい調べた上で、何を応援出来るかを考えるべきだ。次にスポーツ活動の推進だが、これは、冬、泳ぐところがないなど前回具体的な指摘があった。

【委員】アクセスの問題もあるが、スキーなどどうか。専門の方がいるはず。

【部会長】健康で生きがいのところであれば、芸術などとも共通しているが、競技スポーツの振興は微妙に違う。市民参加と違って、もっと言えばコンサドレーが、その下のユースの育成を一生懸命やって、主力選手を送り込んで知名度を上げる。高校野球なら余市など有名だ。

【事務局】シニア硬式野球クラブがある。

【部会長】道央圏では、余市は有名だ。北広島にも少年野球があるが、甲子園のことは余り聞かない。この資料の記載は、このような意味か。

【事務局】少年スポーツアカデミーという事業を実施している。最終的には、その辺りまで考えているかもしれない。

【部会長】素案の最後の施設整備や運営といったところで、前回出ていたドームや市民の運営をつけ足すことは出来る。次に、大学との連携だが、非常に微妙で、道都大学のみが挙げられている。

【委員】部分的だが、美術協会では、道都大の学生に搬入・搬出のお手伝い、アルバイトをしてもらっている。

【部会長】最後、芸術活動はどうか。

【委員】大学生との交流だが、「場」を与えると知恵を絞って、地域の人たちと一緒に何かが生まれてくるはず。例えば、俳句を利用して、子どもとの交流会を設けるなど、そういった意見もあったと思うが、このように大学生が独自のサークルでも何でもいいので、この地域となじめるような場所を提供するのはどうか。そうすることによって、大学生は自分なりのアイデアで地域に貢献するものが生まれてく

るのではないか。そういうような何か、大学と地域との交流の場所を設けるべきではないか。定期的にそういった場所を設ければ、最初は来ないかもしれないが、有志に基礎を作ってもらい、「あそこに行くとうちのお兄ちゃんたちが遊んでくれるよ」とか、「勉強教えてくれるよ」とか、そういったことが広まっていけばいい。

【委員】 当別の北海道医療大学がそれを行っている。地域に、子どもたちやお年寄りや妊婦などが集まる場所を作って、成功している。ただ、これは道都大でやろうとしない限りは無理だ。

【委員】 ミュージアムや市のマップなどを大学生の視点で作ってもらうとか、そういうのがいいのではないか。小樽の高校生だと思うが、観光案内をまとめたことが新聞などで報道されたが、そういった大学生の視線で見たマップというのも、若い人には受けるのではない。

【委員】 今、北広島には廃校があるのか。建物が残っているとか。

【委員】 今後小学校が統合して廃校が出来る。

【部会長】 団地内の2小学校に関しては廃校になる。

【委員】 廃校の予定校はある。

【委員】 そういった廃校を、交流の場に出来ないか。前に、輪厚の奥にガラス工房があったと思うが。

【委員】 ある。

【委員】 何か使えるような形にならないか。

【部会長】 10年後を考えると、廃校の活用というのは課題になるが、まだ廃校に反対する人もいる。

【委員】 体育館など使えたら、野球少年団は冬でも練習出来る。

【委員】 廃校がもし増えるということは、よく考えてみると、要するに人口が減るということで、衰退していくことにつながる。廃校が出来るから、いろいろなものが活性化するというのはい概には言い切れない。

【部会長】学校の資料があるが、この中に小学生と中学生の児童生徒数の推移がある。平成9年から20年までの統計だが、決定的に減ってはいないのかなという気が若干した。平成9年、小学生は3,900人、今3,600人。個人的には5,000人から2,000人位の減少なのかなと思っていたが、決定的に統廃合しなければいけない減少なのか。

【委員】大曲などは増えている。

【部会長】地域のアンバランスがある。いずれにせよ、廃校のことは我々が議論すべきでない。今のところについては、大学との連携について、大学の先生を活用することがかなり大きく書かれているが、学生についてはあまり触れられていない。

【委員】ちょっと気づいたことを述べてもいいか。都市景観というのも、大事なまちの印象などを作るが、あくまでも個人的な意見だが、道都大は夜になると青いネオンサインがついて異様になる。自然の中に大学があるのはいいが、ライトアップされて、何で美術学部があつて、建築学部があつてこうなるのか。ここは教育の部会だが、連携という意味では、やっぱり大学が率先して範を示して欲しい。

【委員】美術協会にも道都大の先生が何名かいるが、僕たちではどうにもならないのですよと。みんな言ってくださいと。

【委員】まずは学生の教育の場になるので、ランドデザインというか、行政と大学と市民と連携するという意味では、改善を求めないと。道都大学の方には悪いが。

【部会長】あの外観は余りにも周辺に溶け込んでいない。

【委員】あそこにエコミュージアムがあつて、断層があり、地層が残っている。歴史的なものがあるのに、人工のネオンサインがピカピカ光っている。こういったことを市民も言わなければだめだし、まちづくりの長期総合計画というのは、こういった視点からも重要だ。

【委員】エコミュージアムに関しては、「地域景観の文脈を読む」という講演会があつたが、まさにそのような話だった。

【部会長】景観条例はないのか。

【事務局】景観条例も相当いろいろな議論をしているが、何を景観として位置づけるか。小樽などは歴史的な建物があるので、一定の、例えば明治時代に作られたなど

の基準があるが、いわゆるそれが景観かどうかというのは別な議論となる。少なくとも市民が大事にしたいなと思われるものは、北広島には自然景観しか詰まるところない。大学の景観問題に関しては、行政としては難しい問題になる。

【委員】 例えば建ぺい率を非常に厳しく、40%を50%にすることが大きな問題になっていたが、このことによってかなり景観が守られている。実効的にも守っているので、こういった流れを反映して行って欲しい。

【部会長】 ネオンの問題も、9節に掲載すると角が立つので、駅前のネオンも含めて環境部会へ送る。最後に10節だが、交流の促進については主語がないというか、読めばわかるのだが、商売の一つとか、いろいろな人と、近くのまちの人と交流しようもあるし、まち同士で交流しようもあるし、ここで、広域交流に交流人口を増加を図りとか、国際感覚となってくると、これはもう地球レベルの交流の話になる。読んでいて焦点が定まっていない。交流については限定すべきではないか。基本的方向で、交流人口の増加とすると、なぜ交流人口の増加を図らなければいけないのかいうことは文章を読まないと解らない。隣接するところと仲よくしようはわかる。恵庭の隣で、その周りと仲よくしようはいいが、突然、ホームステイの受け入れとなると、世界中と仲よくして交流しようということになる。もっとはっきりと、地球規模ですべて人類仲よくしようということならいいが、それは市の計画には載らないし、何かちょっとほかとは違う。施策の体系の中で、国際交流というのは、これは国を問わない国際交流になる。姉妹都市というのが幾つかあるが。広域的というのは、せいぜい札幌圏とか恵庭とか、その辺の、その周りの人たちとなるのか。階層から言うと、この周りの人たち、北海道全体のいろいろな人たち、日本とある。どうもこの辺りが一番すっきりしていない、まとまっていない。具体的に書いてあることはいい。例えば、自転車道が豊平川から恵庭まで続けば、おもしろいと思う。それに対して、桜を植えて歓迎するという流れはいい。ただ、ホームステイの話がひっかかる。

【委員】 広域交流で、野幌の森林公園の中を歩くイベントに参加した。厚別区と江別と北広島、とっても楽しかったが、宣伝が足りない。広報でたまたま見つけたが、もっと宣伝してたくさんの市民が参加すると、より効果が上がるのではないか。

【事務局】 交流人口の増加は、国際交流や姉妹都市交流といったところまでは考えていない。

【委員】 国際交流は記載されている。

【部会長】 微妙な状況だ。

【事務局】今の計画の中に広域交流があり、その中に広域と国際と都市間との交流がある。ここを絡めて、集約して立ち上げれば交流促進ということになっており、レベルがばらばらになっている。

【委員】カナダの高校生が来ているが、どういったきっかけで始まったのか。

【事務局】今の計画書の103ページに掲載されているが、平成3年の「ふるさと創生基金」。この基金で人材育成委員会ができ、そこから、民間交流のスタンスという形ではじまった。そのときは高校生を送った。

【委員】今更かもしれないが、東広島市との交流もある。これは、もともと広島県の方が入植したから、それ以来関係が続いているのかなと思うが、このような交流であれば、これからも広がる。

【事務局】広がるというか、広げなければだめだ。東広島市は、本来は広島市が「御本家」だから、広島市と本来は姉妹都市交流を結ぶのが本筋なのだが、あのときはまだ「町」だったため、規模が違い過ぎることから、東広島市になったと思う。いいとか悪いとかではないが、それで姉妹都市交流を結ぶことになったように聞いている。

【委員】人口が今6万人を超えて、市民の中で東広島市というのをどれくらいの人が理解して、必要性を感じているのか。ただ過去のつき合いの中で、言葉は悪いが、漫然と引き継いでいるという気がしないでもない。
だから、5年後とか10年後にどうすべきかというのを考えていくと、もっと違う考え方があってもいいのではないか。

【事務局】その通りだ。基本的には、今は交流というのは行政交流になってしまっているが、本来は市民が交流しなければだめだ。ただ、その手だてが一番問題だ。模索しているのだが、いい手がない。交流にはお金も必要だが、この辺が問題になる。原点に戻ると、なぜ姉妹都市なのかに尽きる。

【委員】どこも姉妹都市でもいいのではないか。この前広島へ行ってきて、原爆記念館などを見てきたが、北広島にも移動展はよく来ている。だが、やはり本場で見るととても衝撃的で、東広島市と姉妹都市であることを、周りの方に話したが、そのときは姉妹都市であることが妙に嬉しかった。

【事務局】それでいいとは思う。ただ、市民がなぜなのとか、どうするのといった理由付けが必要だ。これは、単に市長や副市長が行って交流しているだけの姉妹都市

交流ではないだろうと。もうちょっと広がりを持たせなければだめだなということだ。

【委員】子どもたちも修学旅行で行って、本当に身近に感じて帰ってきているようだ。

【事務局】子どもたちが行っていろいろな交流を図るのはいいことだ。

【委員】今、東広島市との子どもたちの交流事業はしていないのか。

【事務局】小学生と中学生で行っている。

【委員】毎年小中で変えているのか。

【事務局】中学生ではスポーツ交流も行っている。

【部会長】広島には酒蔵がたくさんある。本当の交流であれば、例えば新酒を持ってきて、北広島で即売会などするのはどうか。

【事務局】昔やったことがある。

【部会長】札幌市などからも訪問者が増えるのではないか。おもしろい酒蔵があるので。

【事務局】10月10日の酒祭りにツアー組んで、市民がどっと広島に行くというのもあると思う。

【部会長】先ほどの昔の話は、出店か。

【事務局】出店だったが、いろいろやり方はあると思う。

【部会長】広島の酒蔵は、北海道では非常に珍しいので、例えば市内の酒屋に必ずあって、そこに行けば1年じゅう、姉妹都市だから買えるなどどうか。

【委員】以前、何かのフェスティバルのときに出店があった。

【事務局】もうかなり前だが、やったことはある。

【委員】 15年ぐらい前だ。それからはない。

【事務局】 当時は、広島から資金を提供してもらって出店した。結局、ふるさとまつりの際に、代わりに販売したことになる。

【部会長】 では、第6章、計画の実現に向けてについて、途中までは進めたい。報告(案)の第6章の1節については、前回出た意見が幾つか記載されている。大きな流れからすると、常設の市民会議というか、10年間を展望した構想を語る「委員会」だが、アフターケアは我々の責任ではないといった、もう少し市民が、市にいろいろなことについて言えるような、気楽な立場で言えるような会議が必要だといった意見があった。図書館や芸術ホールなど、市が行っている事業についても、産業界や市民グループが運営に参加出来る。各層別に、部分的なこと、例えばスポーツであれば、市が体育館などを整備するが、いろいろな意見を持っている市民が集まって、一月に1回でも、1年に2回でも、そこに一定の提言をしたり、分担してボランティアで何かをすることといった、いろいろな階層の市民参加というのがあるはずだ。素案の全体のこと、施策の体系もいいと思うが、6章の検討はいろいろなところすべてかかわる。このため、全体は市役所が支えるが、ある程度動いていくときには、いろいろなレベルで、いろいろなことに市民が参加していく、そういうことが必要だ。市民参加は独自の課題ではなくて、最終的な計画の中で、可能な限り市民参加の道とか、システムを作るべきであるし、そういう提案でいいと思う。だから、細かく市民参加を語るのではなく、計画そのもの、全体の基本的なところで、市役所に10年間任せるのではなく、時々市民の知恵とか体力とかをかりる、そういう視点を入れるべきだ。その意味では、書いてあることはこれでいいと思うが、もっと広げるということ、この部会としては提案したい。

【委員】 市民に広げるということか。

【部会長】 市民参加を謳うだけではなく、施策を実行する際は、どこであろうと市民参加の場はある。スポーツも芸術も社会教育も、産業だって市民参加をきちんと入れ込めるはずだ。そういう意味では、6章の1節に市民参加は書いてはいるが、もっと広い位置づけにして、ありとあらゆるところに市民参加を思想として入れて欲しいという提言をしたい。

【委員】 今言われたように、我々のような昭和10年代の者だけが考えるのではなく、これからの時代、例えば平成生まれの人たちがどんどん出ていくことになる。10年経っても、その人たちは30歳とか、一生懸命社会の中で中堅として頑張る年齢になってくるので、そういう人たちの意見や考え、あるいは今の高校生である

とか、あるいは大学に入ったばかりの若い力を持った人たちが意見を述べられるようなことが大切なのではないか。

以前、市制の記念の際に、「子ども議会」があったが、今はどうか。

【事務局】 今はない。

【委員】 自分が市長だったらこういうことに力を入れたいとか、夢のあるような子どもたちの意見も取り入れられるようなものを作る必要があるのではないか。あるいは、札幌から北広島を見たらどうか、恵庭から見たらどう思うとか、そういったことも含めて、幅広い意見を聞くとか、決定権はないにしても、そういう将来の、例えば10年後でも、その子たちの意見や隣りまちの人たちが、いいまちだねと言ってもらえるような、そういった人たちの意見が反映させることも一つの方法ではないかと思う。

【委員】 この第6章は、行財政の運営と地域になるが、全体を見て、まず順番が気に入らなかった。1番に市民参加・協働が来ているが、確かに、うまく運ばばいいことだけれども、安易に取り上げてはいけない。弊害もある。順番として、4番目の行財政運営、行革の推進が1番に普通は来るのではないか。その次に、個人的な意見だが、平和と人権は大切なので入れて、男女共同参画は全部のことにかかわるので、人権の後に入れ、そして市民・協働はその後でいいのではないか。また、内容については4番目の行財政運営は文章がくどい。もっとわかりやすく短くしても構わないのではないか。この中に、市庁舎の整備のことを謳っているが、これは、載せた方がいいのか。ちょっと疑問に感じた。

【部会長】 10年間の計画だが、10年間今のままということは絶対ない。

【委員】 庁舎を建てることも謳ったほうがいいのか。

【部会長】 計画でやらざるを得ないのではないか。また、教育文化は余り発展しない課題だが、連携の問題などはここで考えてもいいし、男女共同参画がここに入ることも確かだが、1から7までの節の組み合わせについてはどうか。

【委員】 第6章の節について、中身についてはいいのかなと思うが、意見の反映に関しては、すべてに係ることになる。今回の大切なポイントは、まさに第6章にある。教育が重要ではないという訳ではないが、まさに第6章をやっていないと評価がなされずに、我々市民としては、何だったのかなと。勉強不足なのかもしれないが、長期総合計画を今まで見たこともなかった。今回いい機会にはなったのだが。そういう意味は、1節の市民参加・協働というのは物すごく大事だ。そしてそこで

評価して、市民が入って、議会や行政府が評価するのは当たり前だが、我々の手元にその結果が来ない。市民のほうにディスクローズされていない。ただ、すべて細かく検討されているので、やはり全体の問題ではあると思うが、1節と6節ぐらいは少しポイントにして、若い方を含めた市民も参加出来るようにしないとイケない。プロセスとしては、何年かに一遍フィードバックして、政策評価を市民の目でもするような仕組みが必要になる。具体的に何を推進していくかは、ここには書けないのかもしれないが、市民による「評価委員会」など、新しい目で評価して、フィードバックして、また新しいものを組み入れられるシステムを明確化していかないと、結局、どうだったのかわからなくなる。

【部会長】 6節には、1節で言っている市民参加にしても全く記載されていない。だれがどのように評価するのかといった視点が。

【委員】 行政なのか議会なのか市民なのか、それとも審議会を作るのかということが書かれていない。

【事務局】 外部評価委員会の中では、だれが委員なのかということは書いていないが、第三者機関を設置して、市民公募で募っているほか、学識経験者も含めて実施はしている。

【委員】 総合計画は、まちづくりの憲法だから、独自のそういった委員会のようなものはあってもいいのかなとは思う。

【部会長】 6節は補強が必要ということで、市民による評価、市民参加、それから若い方、ここに生まれて、この高校を出て大学に入ったばかりだという人にも意見を述べて欲しいことを追記したい。

【委員】 委員の選び方も、職域代表など「縦」だけではなく、「横」の20代や10代も1人ずつ公募させるなども必要ではないか。そうしないと学生は出てこない。

【部会長】 北広島は典型的なベッドタウンだと思っていたが、資料を見ると、よそのまちから働きに来る人も、北広島から働きに行く人と同じぐらいの数がある。だからベッドタウンというのはちょっと違う。そうすると、北広島に働きに来る人にも発言権があるはず。

【委員】 勤務先が札幌市だったため、札幌の図書館から借りるのと、北広の図書館と両方から借りることが出来たが、北広島の図書館は非常に評判がいい。本が多いとかではなくて、この図書館は広くて明るくて、すごく雰囲気がいいという。ほ

かの市民の目で見てもらい、評価してもらいというのも大事ではないか。

【委員】 司書がすごくいい。こういうものを探したいといったときに、道内の借りられる図書館のデータを調べてくれるなど、とても親切だ。

【委員】 市民も司書を育てているのではないか。感じよく接しているから向こうもというのがあのではないか。

【委員】 そういう意味では、民営化して成功した例ではないか。いろいろな意味でいろいろな人から評価してもらいというのは、大事なことはないか。

【委員】 若い方を入れるのは理想的ではあるが、現実的に生活に追われていかるから、まず無理ではないか。でも、市で行っている講習に出席した際、若い方がたくさん来ていた。勉強したいとは思っている。

【委員】 そういうことも市民に知らしめて、公募したりして発掘しないとけない。

【委員】 市民公募は、今回は年齢制限がなかったのではないか。

【委員】 その点は少し残念だ。確かに忙しいが、とにかく引っ張り込むことをしないと。

【委員】 年取った者が、若い者が働きやすい、過ごしやすいまちを作るように意見をどんどん言いましょう。

【部会長】 今までの意見は、この計画の実現に向けての全てにかかわる問題なので、整理して欲しい。次は、節ごとに確認をしておきたい。今のところ、第1節は一定の議論をしたので、2節の平和については、これでいいとは思っているのだが、つけ加えることがあれば発言して欲しい。できれば、平和と人権尊重については、これまでも一つの「売り」でもあるので、これはこれで認めてはどうか。それから、3節については、女性委員が3人いるが。

【委員】 男女参画の委員をしており、「エミング」という広報紙も発行しているが、そのことが一言も書かれていない。市民の意識啓発、活動紹介のために発行することは掲載してはどうか。

【部会長】 施策については、どう記載するか。

【委員】意識の变革のところで、広報紙も役目を果たしているということでどうか。

【部会長】それをどこかにつけ加える。基本的な施策の体系については、これより
しいか。4節の行財政運営と行革の推進については、非常に当たり前の話だが、最
後に、新庁舎の整備が出てくる。ここについて補強意見とか修正意見があれば出し
て欲しい。新庁舎は、いわゆる「市役所」みたいなものをつくらない。前回議論し
たように、みんなが、市民が集まれる、執務スペースは半分ぐらい、あとは何とな
くいつも人が集まって何かやっているなという建物が駅の近くにあればいいなと
思う。図書館は、本を借りに行つて、五、六人集まって、会議室を借りるほどでは
ないにしろ、何かおもしろい話をするという場所がない。テーブルがあつて、5人
で、10人で仕切つて何かをやつていて、コピーをちょっととつてくれたりとか、
パソコン使いたいと言つたら貸してくれたらとか、人が集まるような、そういう新
庁舎はどうか。受付があつて、来た人はそこに顔を出して、用事が終わつたらさっ
さと消えてしまふというのではなく、これだけ市民参加を謳つているのだから、そ
れを保証するような、集まる場所、情報交換する場所があつてもいい。市役所は、
まさしく市民のいろいろな活動の拠点なのだから、市職員と市民が同等に使えるよ
うなものにしてはどうか。「安全で利用しやすい」といった記載は旧来の話で、も
う少し市民活動の拠点として考えてはどうか。

【事務局】「市民ホール」か。

【部会長】みんなが集まつてわいわいとできて、ちらつと見ていた職員が応援する。
そういった、わいわい集まる場所。また、前回議論したように、地域にも同じよう
な「集会所」があつて、子どもや大人が集まる場所になる。

【委員】ネットで出会つた「顔の見えない人」が市民センターのようなところに集
まつてオフ会や情報交換をしている。「市民ホール」は葬儀場などのイメージある
ので、例えば「シビックセンター」など。「市民のための市役所」というと、どう
しても役所が主役になる。

【部会長】「怪しいやつは入つてくるな」、「用事がある人はちゃんと申請して用事を
言つてください」、「終わつたら帰つてください」、それではダメだ。

【委員】大曲の夢プラザでは、コーヒーとパンを売つている。市の本来業務は全く
なく、図書館や児童館であるとか、あるいは会議室を使う団体などが利用出来る。
広いホールにしては白樺がずっと眺められたり、冬には雪景色が見られるが、ああ
いったロケーションのところに市役所があつたらいい。大曲の夢プラザは、非常に
画期的ではないか。今度の市役所には、お金を払うとか、申請に来るだけではなく、

終わった後はゆっくり癒して帰るとか、そういう場所があったらいいなと思う。

【事務局】 基本的には、「市民ホール」といった構想もあるが、資金の問題がある。今の検討は、規模的にはだいぶ小さいものになっているが、ここでは皆さんの発想で議論して欲しい。

【委員】 高層化して余った土地を売却したり、PFIなど、いろいろな方法があるのではないか。

【部会長】 マンションの建てかえもそうだ。100軒分を高層にして200軒にして、元からいる100軒の負担を減らすなどある。

【委員】 そういうことを考えないといけない。今、基金は10億円だったか。10億円で足りるのかどうか解らないが、そういう貯金があるなら、多分、将来的には可能だ。そうなれば、この新庁舎の整備は目前に迫っているので、この辺りを盛り込んで欲しい。

【部会長】 夢を入れて欲しい。限られた人が考えて、どこにでもある市役所ではなく、全く新しいコンセプトで。大曲の夢プラザなどの成果を取り入れて欲しい。

【委員】 かけたお金が有効に使われているなど後で感じられるものにして欲しい。駅も立派だが、あれはもったいないという意見のほうが多く聞かれる。確かにすばらしいが、どういう方向で活用していくのかということも記載して欲しい。いつも福祉の人が来て野菜を販売しているとか、日大高校の野球部が甲子園行くから、あそこで壮行会をするとか、そういったことだけでなく、もっと根本的な交流出来る広場になっていけばいいと思う。

【委員】 駅は、何かの補助事業か。

【事務局】 都市計画事業と鉄道の両方があり、非常に難しい。

【委員】 すばらしいのを作り過ぎたという話はある。ただ、補助があるから作らざるを得なかったのではないか。

【委員】 それだけのお金、本当に必要な分だけのものを使って、もうちょっと何か違うものができなかったのかなど。だからこそ、新庁舎はそういうことにはならないで欲しい。極論すれば、今の市庁舎が悪いとは思えない。もちろん古くて、耐震などいろいろな問題はあるだろうが、とてもレトロでいいという評価もあるかもし

れない。今は庁舎が分散していて使いにくいといったこともあるが、実用的なものであって欲しい。例えば、会議をやろうとすると、本当に場所を探すのが大変だということもあるので、市民が借りられる会議室というものがあれば非常に利用しやすいものになる。

【部会長】 昼間は役所で、夜は皆さんに開放するということも考えられる。要するに頭の切りかえというか、柔軟に。今のような考え方でいくと、夜は真っ暗になっていて、昼間だけ役所が使っているみたいな感じになるので、やはり「市民ホール」的な発想はどうしても必要だ。

【委員】 庁舎を今建てるとしたら、単独事業になるのか。

【事務局】 そうです。起債事業になる。

【委員】 単独事業であれば、首長が決めればいい。

【事務局】 「市民ホール」的なものを作るのであれば、結果的にそれは単費となるため、どうしても小さいものになるという、正反対なことになる。

【部会長】 時間なので、一応順番に確認だけは行います。今のところはよろしいか。次の広域連携のところは、一応これで意見を聞こうと考えている。政策評価は、多方向とか、いろいろな年齢層とか、もう少し市民参加の仕組みに直すということで、6節は力を入れて欲しい。7節の情報公開と広報広聴については、これも市民参加と情報公開というのはかなり重要だが、これでいいか。一番最後のページに、情報の共有など記載されているが、これ自体についてはケチつけることはない。あともう1つ、今日議論しなければいけないことは、前回からの宿題というか、キャッチコピー、スローガンについて、部会としてももう少し考える必要がある。今日、第2回の全体会議議事録の最後に、会長が三つ柱を示しているが、スローガンはまだ確定していない。この部会の課題にとどまらず、会長がまとめた三つの柱に対応することを考えていきたい。

【事務局】 資料では、会長の発言を含め、前回の意見をまとめてある。

【部会長】 成長のことで、活気のことで、若い人、自然ということか。できれば、「何とかの何とか北広島」というものが考えられればいい。一応宿題ということだったので、だれからでも、もしあれば。

【委員】 短いほうがいいと思って、「興そう北広島」。要するに、潜在している活力

を活動させる。あるいは静止、あるいは停滞しているものを、他から刺激して活動させるという意味で、「興そう北広島」。

【部会長】「興そう北広島」、こういう大きなスローガンは、説明ではなく、また下にサブスローガンみたいな「何だかを興す」、「何だかを興す」をいっぱい書けば、文章でなくても説明にもなる。ほかにないか。興そうというと、何を興すのかといった興味を持つ、次にこれだよと続ければ、いろいろなものを包含出来る。ほかにないか。

【委員】前回の検討の中で、子どもを産みたくても産婦人科がないなどの意見があった。福祉や高齢者ばかりではないはず。ここに住んでいる人は、非常に若い人もいれば、健常者もいるし、働いている人もいるし、子どももいるし、大人もいるしという意味で、やはり「4世代が交流出来るまち」などどうか。他には、「新しい命が芽生えるまち」や「高齢者が楽しく集えるまち」、「生きる人々を応援するまち」、「生きる力をはぐくむまち」、「すべての人にやさしいまち」、「活気あるまちづくり」など考えてきたが、全体として大きなスローガンがあればいい。これらは全て「何とか何とか出来るまち」とか「するまち」など、トータルなことを考えてはきた。

【委員】現実問題として、このまちは将来的に高齢化していくことは間違いない。何かいろいろな仕組みを変えて活性化、要するに若い人をふやすなどの策があれば別だが、この状況が進むと、このまち自体が高齢化社会になる。

【部会長】前の全体会議でも発言したが、例えばきちんとした産婦人科、札幌のどこの病院にも負けないようなものを作る。市立病院を作るのは非現実的だが、産科に関しては、この広域圏の中に拠点は無い。例えば北広島の小学校が無くなるなら、そこに病院を作って、集めてはどうか。それで産まれた人は、札幌に帰らないで北広島に住んでくださいと。保育園は完全に整備されていますと。今は札幌だって安心して子どもを産めない。この辺は、道路が夜中渋滞することもないし、救急車も江別にだってすぐに行ける。千歳や新札幌ぐらいまでなら救急車が走っていける。例えば、札幌市に働きかけて、「あなたのところの厚別区と白石区は受け入れるから10億円出せ」とか、「広域組合で長沼から1億円もらう、千歳からも1億円もらう、うちからは5億円」、そういうことも出来るだろうし、あとはやる気だけだと思ふ。

【委員】他と同じことではなく、目標を悲観的にではなく、それができないではなく、出来るような何かをしていかないといけない。

【委員】ある程度行政が頑張れば出来るような気がする。それだけに、この部会で

相当知恵を出さないと、なかなか目標達成は出来ない。病院一つにしても、単なる病院を作れば何とかなるというのではなく、産婦人科医が減っているという状況があって、それをどうするのかは、ここだけの問題ではない。ただ、初期治療が出来る産科医院を作って、他の都市との連携を図るなどすれば、確かに住みやすい。

【部会長】 北広島にも医者は住んでいる。

【委員】 ただ、確保は難しい。大学でも足りない。

【委員】 特に産科は責任を問われやすい。

【委員】 医療の問題は、地域だけではどうにもならない。

【部会長】 女性の産婦人科医、ここに来れば1年の産休があって、また復帰する。住宅も全面的に支援すると宣言して、日本全体から医者が来ると考えれば、出来ない理由にはならない。全くどこのまちもやっていないことをやれば、産婦人科の中の何%かは絶対いると思う。もちろん産婦人科だけでなく、地球レベルで情報発信して、どんな人材も地球レベルで集めればいい。話がずれたが、スローガンの話で、考えてきたことがあれば最後に発言願いたい。「24時間安心して歩けるまち」でもいいし、まち全体でそういう仕組みをつくれれば、そのスローガンが一つの売りになる。いろいろなこと、知恵を出せば考えられる。

では今後について。10月6日に全体会議があるが、それぞれの部会の議事録が配られているので、これを次回まで確認して、ここの「守備範囲」ではないことについても、全体では意見を言う。それで、その次が10月の下旬にもう1回全体会議があるのです。そこでは、各部会の報告と、意見を取りまとめた提起を行うのか。

【事務局】 10月6日は、各部会からの報告があり、1章から6章までについて形をつくり、28日の全体会議に諮って、それから再度継続審議を行っていく。

【部会長】 今日議論したのは2章と6章だが、それぞれ部会ごとに審議、全体会議で作直されたものが10月の2回目の全体会議では提起されるということか。

【事務局】 提起されます。

【部会長】 この2章と6章についても、10月の末の全体会議で提起されたら、また我々が持ち帰り、部会で審議するのか。

【事務局】 大きくかわれば別だが、11月以降も継続審議していきたい。

【部会長】 10月の末に、素案の1章から6章までの提起はされると。11月に入って、第2段階目の部会が始まるということか。

【事務局】 原案作成に向けての、方針についての審議がある。

【部会長】 これはまだ市民の目に触れるものではないということか。次の11月の段階になってくると、ある程度公表されるのか。

【事務局】 市民説明会も当然行っていく。

【委員】 キャッチフレーズを今考えた。「安心して産み、育てられるまち」、それと「安心して老後を迎えられるまち」、あともう一つ「幸せに暮らすまち」、以上です。

【部会長】 何個出しても構わない。全体会議で、今出ているものを含め。

【委員】 「大志を抱け北広島」とか「大使を抱ける北広島」とか、そんなような。

【部会長】 スローガンのほうはよろしいか。次回集まるのは10月6日。それから10月の下旬にまたもう1回集まって、このメンバーで再度集まるのは11月5日、まだ日程は確定できないか。

【事務局】 11月はまだです。

【部会長】 それから部会報告だが、配布された報告（案）の①、②について、事務局が作成したものだが、今回についても事務局で素案を作って欲しい。報告は何分か。部会報告というのは、15分位か。

【事務局】 15分から20分程度。3部会の報告に1時間、協議に1時間。

【部会長】 であれば、書いたことを読み上げる時間はない。資料としては4枚から5枚程度のボリュームになれば。この部会で何を検討して、項目としては全て記録として出す。報告として出すが、流れとしてはどこかに重点を置いて話をしなければならない。これについては、考えをまとめて報告したい。報告（案）については、今回の議論を踏まえて、事務局が作成した素案を検討して提出する。15分の報告については、本来は承認を得なければいけないが、任せていただけるか。強調すべきところを強調して話をする。

もしその報告に間違いがあれば、全体会議の中で修正してもらって構わない。一応、報告は私の責任で私がやらせていただくことでよろしいか。

(「よろしくをお願いします」の声あり)

4. 次回専門部会の日程

【事務局】 今後の日程関係、第3回の全体会議の案内は、机上に配布済み。6日、時間の都合で6時半、30分おくれてスタートする。続いては10月28日となる。午後6時から、全体会議を行うが、進行次第では、引き続き、専門部会となる可能性がある。このことについては、改めて連絡する。

5. 閉 会